



DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4

Higashi Marunouchi Tsu JAPON

N° 42 octobre 1997 SOCIETE FRANCO-JAPONAISE DE MIE

《あらためて》フランス語を学びませんか？

三重日仏協会では毎春、「フランス語入門講座」を主催して好評をいただいておりますが、そのほかにも県内各地で各種のフランス語教室が開かれています。事務局でつかんだ範囲で、そのすべてをご紹介します。秋深く「お勉強の季節」、あなたにいちばん適した（時間、場所、水準）教室に参加しませんか。どの教室も見学を歓迎しております。また各先生の個人レッスンも可能のようです。事務局でお問い合わせを受け付けています。

	(会 場)	(講 師)	(基 本 日 時)	(費 用)
四 日 市 市	ぢばさん三重	シャンタル・シャルル	土 曜 ① 10時～11時 ② 11時～12時	月10,000円
	丸八ビル	田名後 正子	月 曜 11時～12時半	月10,000円
鈴 鹿 市	近鉄鈴鹿市駅ビル	シャンタル・シャルル	水 曜 19時～20時半	20回コース 12,000円
津 市	第一ビル	ジャン・フランソワ・ダメモ	月 曜 18時半～19時半	月11,000円
	オーデンビル	ジャン・フランソワ・ダメモ	火 曜 ① 18時～19時 ② 19時～20時	月11,000円
	藤田耳鼻科医院	フランク・モラール	火 曜 ① 16時半～17時半 ② 17時半～18時半 ③ 18時半～19時半 ④ 19時半～20時半	3ヵ月(10回) 30,000円
松 阪 市	みえ・エデュケーション・ネットワーク	ジャン・フランソワ・ダメモ	水 曜 19時半～20時半	月10,000円
			金 曜 ① 18時半～19時半 ② 19時半～20時半	

会員の随想

三重日仏協会の武村泰男会長(三重大学学長)は、三重大学とパリ第6大学との協定の調印などのため、さる6月末からフランスを訪問されました。〈どんく〉編集部では「この際に」と一文をお願いしたところ、さっそく寄稿いただきました。

はるかなブルターニュ

武村 泰男

モン・サン・ミッシェルといえばフランスの観光案内には欠かせない、ブルターニュ地方の名所です。干潟にそそり立つ、教会を中心にした巨大な円錐形のピラミッドで、非常な遠浅による干満のスピードでも有名です。最近では砂がたまってよほどのことでないとこの辺まで満ちてこないのが、スケールの大きい計画を立て膨大な砂を浚渫するそうです。近くに、有名度ではモン・サン・ミッシェルに劣りますが、知る人ぞ知る世界一の潮汐発電の研究所があります。

この一帯はブルターニュ地方ですが、この6月に訪れる機会がありました。パリ第6大学と三重大学が大学間協定を結んだことに伴う渡仏ですが、デュピュイさんというコンピュータの研究では世界的な教授のたつての招待でこの地方にあるその別荘に厄介になったものです。

モン・サン・ミッシェルは教会と門前町が一体となったような小山ですが、ざっとひとまわりするだけでも2時間ぐらいいかかります。デュピュイ教授はたいへんに太っている人で、私より若いのに引力に逆らって歩くのは不得手のようで、口実をつけては立ち止まるので時間がかかること。そのかわり運転は得意で、われわれなら3時間かかると思われる距離の別荘まで2時間で走り、家内は高齢者暴走族と呼んだくらいです。パリまで世界にそのスピードを誇るTGVに乗って帰る私たちに、「車で帰るがあなたがたより早くつくよ」と豪語していましたがまんざら嘘ではないようでした。

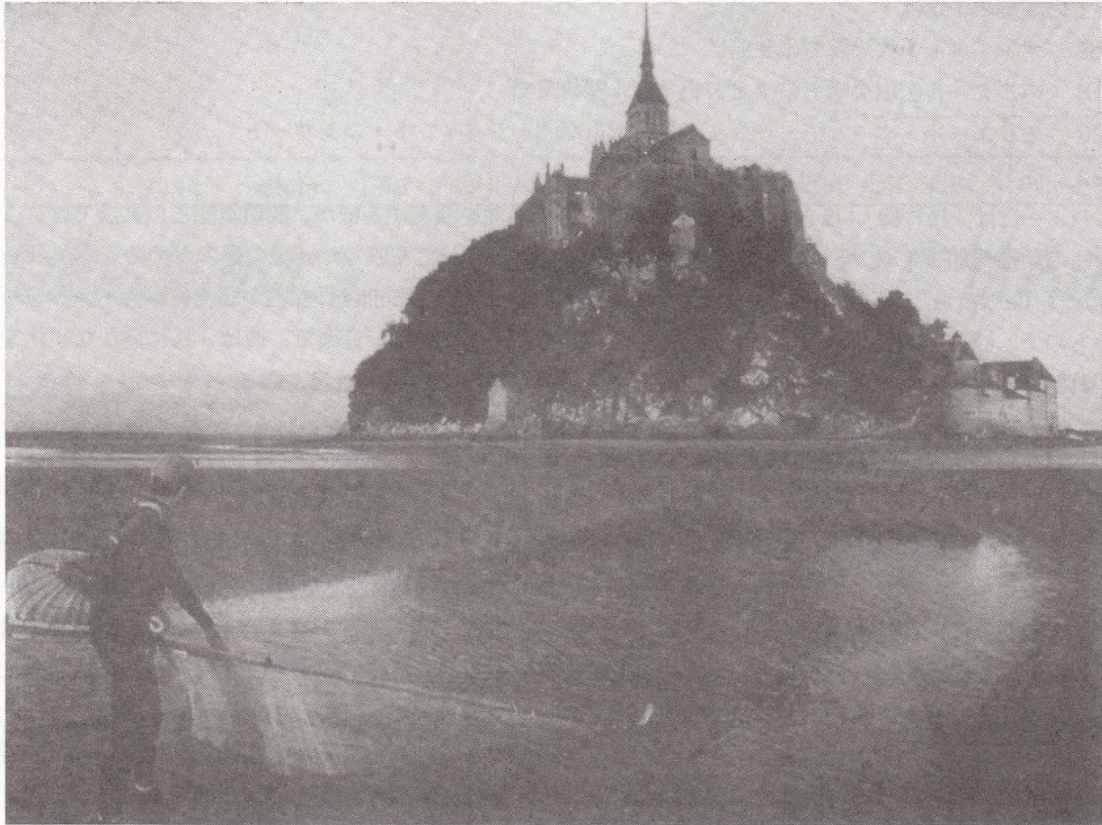
国際交流には夫婦連れがよい、とかねがね思っていたので今回家内が同行しましたが(もちろんその分は全額自費です)、案内をかねてごいっしょして下さった三重大学の清水教授(クリーンなエネルギー源の研究で著名です)夫妻とその連れも使えるのは英語だけ、とあって、多少のフランス語使いの家内はデュピュイ教授にたいへん気に入られました。

「この分なら半年フランスにいれば十分うまくなるよ」とフランス人らしい巧みなおせじを見せると、家内は家内で「来年留学しようかしら」と乗ったくらいです。

彼の別荘は大西洋に面した丘の上に一軒だけ建っている煉瓦造りの二階家ですが、電話もないという徹底した自然の中の暮らしでした。ここで永住するのが彼の夢で、来年1月にはリタイヤするんだ、と威張っていました。

例年になく寒い夏で震え上がったほかはまさに別天地のブルターニュ体験でした。

〈関連資料映像〉



フランス政府はフランスでもっとも多く観光客が訪れる史跡を砂から救い出す壮大なプログラムに着手する。

フランス大使館広報部発行 フランス便り 1996年4月号より

新会員名簿発行などについてお願い

2年ぶりに会員名簿をつくる作業にはいっています。前の名簿から、お名前、住所、電話番号、お仕事について異動のある方は、ご面倒ですが事務局までお知らせください。

(☎059-226-2766井土、059-225-2517滝沢、059-223-2690菅谷)

また97年度会費(3,000円)未納の方は早めに納入してくださるようお願いいたします。

リヨン訪問 準備すすむ箏曲演奏家一行

ラヴェル弦楽四重奏団と共演など4回の演奏

「フランスの日本年」にあたって三重日仏協会が初めて海外で取り組む事業、ローヌ・アルプ地方「日本フェスティバル」への箏曲演奏家団紹介の事業の準備が順調に進んでいます。今回フランスを訪問するのは、本会会員である箏曲師匠・浜田文登勢さんを中心に演奏者8人と関係者、視察目的の本会会員ら計25人で、A班が11月14日出発24日帰着、B班が11月16日出発23日帰着の予定。

リヨン市での演奏の予定は

- 11月/16 サン・ジャン大寺院のミサ前に
- 18 ベルクール広場会場でのフェスティバル開幕式で
- 20 モリエール・ホールで、ラヴェル弦楽四重奏団とジョイント・コンサート
- 22 同上

となっており、一行は「松竹梅」「ほととぎす」など日本古典の名曲を演奏するほか、四重奏団との共演では、このほどパリ在住の新進作曲家ヤセン・ヴォデニチャロフ氏に本会が委嘱して完成した『緑の島のための二章』(Deux pièces pour l'île verte)を初演することになっており注目されます。この曲は作曲者が遠く日本をイメージしながら書いたもので、「影」「渦巻」の二つの部分からなるきわめて緊張感の高い音楽で、彼は「私に豊かな文化を発見させてくれた日本の友人たちへのオマージュである」と語っています。

9/21(日) 三重県国際交流フェスタに参加

『グルメと音楽の伝統』をアピール

ことしで第3回目の三重県国際交流財団主催「草の根国際交流フェスタ」は9月21日、三重県女性センターで開催され、いろいろなコーナーがあって賑わいを見せましたが、多くの国際交流団体とともに三重日仏協会も、会の活動をPRするパネル展示と「世界の料理食べくらべ」のコーナーに参加しました。パネル展示では、今回は会の諸活動のうち、グルメと音楽に焦点をしぼり、去る5月テレビ東京系の全国中継番組でパン作りの「テレビチャンピオン」に輝いたドミニク・ドゥーセさんや、日本ワインアドバイザーコンテストで続けて一位入賞した長田康二さんと杉本静彦さん、さらに近くリヨンの「日本フェスティバル」で共演する琴の浜田文登勢さん(以上いずれも本会会員)とラヴェル弦楽四重奏団のそれぞれ活動の映像を紹介しました。また料理の方では、〈ドミニク・ドゥーセの店〉製造のパン各種と、フランス製紅茶を提供、参加者はこれらを味わおうと長い列を作っていました。



パンの配布



パネル展示

三重日仏協会 11月例会のお知らせ

毎月第3木曜日に津市西丸之内の井上さん宅をお借りして開いている例会は、11月20日が本会のリヨン訪問団の日程と重なりますので、1週あとの11月27日(木)に変更いたします。今年は出来がいいと前評判のボジョレ・ヌヴォーなどを味わいながら、リヨンのみやげ話に花が咲くことも期待されます。気軽にお出かけください。